

## 歩道の維持管理作業（補修等）作業計画に対する 登山道技術指針運用・活用ワーキンググループ意見

計画者：特定非営利活動法人かむい 担当：濱田耕二 事務局受付：平成 30 年 8 月 6 日

御意見提出者	項目	御意見
愛甲哲也 (北海道大学 大学院農学研 究院)	資材の調達について	特別保護地区であり、風衝地の植生もあるため、石の現地採取については配慮が必要である。石の採取によって、新たな裸地の発生や、植生への影響が懸念される。
愛甲哲也 (北海道大学 大学院農学研 究院)	施工方法	4p の施工方法によって、どのように流路がつけられ、水量が分散されるのかが不明である。
岡崎哲三 (合同会社北 海道山岳整 備)	NO.2,3 に関して	<p>昨年秋に現場を見ております。</p> <p>施工手法、内容に関して、木柵及び石詰め施工は得策ではありません。</p> <p>場所は流水があり、踏圧や凍結融解現象で崩された土壌が流水で流されている場所です。</p> <p>歩行路を完全に埋める施工をすると、流水はその上を流れることになり、結果として埋めた場所の脇を流れることになり、土壌侵食が起きます。登山者をご存知の通り、土の上を好み、木の上を好み、石材の上は嫌います。石材で埋めた場所に水が走っていると、ネットがあっても土壌の上を歩くことが多くなります。</p> <p>何よりも、土壌しかない場所を大量の石材で埋めるのは大きな景観や地質の変化であり、既存植物への影響が心配です。</p> <p>現場延長は長い場所ではないので、まずは小規模な木道を配置し、土壌の変化を見ることから始めてはどうでしょうか。また、この上部に自然にできている排水路がありました。まだ機能しているとは思いますが、石材を使うならば、そこに集中させて排水路を作るべきだと思います。</p> <p>12 年前に調査したときの記録と見比べると、複線化が起き、路床低下は進んでいます。植物は法面傾斜が緩み、下りてきているようにも見えます。写真の場所の横への拡幅はあまり進んでいないように見えます。</p> <p>複線化を止めるには適切な時期に素早くロープを張ることが必要です。とくに雪解け時期には状況をしっかり</p>

りと見ておくことが大事だと思っています。

複線化したこの場所へはネット施工のべた張りではない施工を賛成します。



NO.2 写真の場所。2006年

		 <p>2016年</p>
<p>岡崎哲三 (合同会社北海道山岳整備)</p>	<p>最終ページの施工について</p>	<p>場所が特定できないのですが、展望台を上がったところでしょうか。 写真を見る限りですが、水止めになっている倒木に切り欠きを入ただけで水位は下がります。</p>
<p>岡崎哲三 (合同会社北海道山岳整備)</p>	<p>施工そのものについて</p>	<p>こういうことを伝えるのは心苦しいのですが、昨年行なわれた銀泉台の施工も踏まえ、現時点での施工延長に反対します。</p> <p>やるべき場所は多々あり、ちょっとでも進めたい気持ちはわかりますが、昨年度に行なわれた施工は、あまりにも景観を変えてしまい、私は過剰整備だと思っています。</p> <p>土壌が基本地形の場所を大量の石材で埋め尽くしてしまったのは、植生に配慮した施工とは思えません。</p> <p>登山道整備は下界の土木工事と違い、植物と土壌の関係を知りつつ、植生の変化を見つつ、少しずつ進めていくべきだと思っています。濱田さんの施工量や労力はかなりのものだと思いますが、であればなおさら慎重にすべきと思います。</p> <p>昨年の施工に関しては、私のところに山岳関係者が10名程度ですが苦言を言いに来ております。人によ</p>

ては「あんなに改変して良いのか！」と怒鳴り込んできた方もおります。



(昨年施工箇所。この状態では登山者は歩行路を歩かない可能性があります)

許可した前担当者も、「許可したがあんなになるとは思わなかった」とやり過ぎを認めています。計画をしっかりと聞かなかった担当者にも非があると思います。濱田さんに直接言うことができる人は少ないと思いますし、労力をかけられた姿勢は素晴らしいと思います。労力や登山者への配慮には賛同します。

ですが自分は侵食の放置も良くないですが、過剰整備はもっと良くないと考えています。元の自然からかけ離れて、人工の道になってしまったとき、戻しようがなくなります。また、施工することが「善」である、という形になってしまうと、過剰整備を止められなくなっている地域も見られます。

施工自体を見ても水と道の関係が理解できているとは思えず、カスガイでの固定も施工後 10 日ほどで数か所の外れがありました。高度な施工技術があるとは思えません。

とは言え、施工をしなければ技術は身に付きませんので、まずは今年の施工をしっかりと見つめ、改修するところから始められたほうが良いと考えています。

最終ページの写真のように水みちと歩行路を分離すべき、と「かむい」の従業員の方にお伝えしました。

		<p>ですが、言葉で伝えただけでは技術は伝わりません。これをやるには細かい技術が必要になってきます。登山道整備をするならば、景観に配慮し、少ない資材で、その場の自然に合う技術を身につけるべきだと思います。そのためであれば、北海道山岳整備として協力します。</p> <p>やる気があるならば、まずはしっかりと技術を持って進んでほしいと願います。</p> <p>事業執行者の方には、どのような施工がその場所に適しているかをしっかりと判断し、後々手遅れにならないように配慮していただきたいと思います。</p>
藤このみ (NPO法人大 雪山自然学 校)	3 枚目上段の施工方法に ついて	<p>土留めにより大きな段差ができた場合、登山者は法面を歩く可能性があるので、段差を小さくすると良いのではないかと。</p> <p>また流水がある場合、最下段の下部で水たたき石周辺の洗堀が発生するのを防ぐため、最下段を斜度がほとんどない箇所までもっていく、大きめの石等障害物を利用するなど、工夫が必要と思う。土質は違うが旭岳姿見では、これにより洗堀ではなく土砂が堆積した箇所がある。</p>
藤このみ (NPO法人大 雪山自然学 校)	3 枚目下段の施工方法に ついて	<p>写真のような複線化した箇所で、ロープで保護することができる部分においては、歩行路が確保されればネットがなくても回復に向かうのではないかと。</p>
藤このみ (NPO法人大 雪山自然学 校)	4 枚目の施工方法につい て	<p>この写真だけでは確実なことは言えないが、この部分においては洗堀等荒廃はないように見え、大規模な施工をする必要性を感じられない。この前後で流水による影響があるのであれば、分散排水工のみの対応で良いのではないかと。登山者による拡幅が心配される箇所であれば、飛石工等はどうか。</p>
三木昇 (山岳レクリ エーション管 理研究会)	施工法	<p>図面中 赤岳展望台の水路化した登山道については 今回でまずはよしとしますが、水の分散を図る。細かく分散させる。登山者のために飛び石状のものを配置する。これでハイマツのほうに入るのを防ぐ。</p>
三木昇 (山岳レクリ		<p>花園修理 これでは今回はよし。 登山道はどんどん広がります。植被のないところはしっかりとネットで抑え込む必要があります。春季、登山者は中央の雪のあるところさけて法面を歩きますのでネットが傷みます。 傷</p>

エーション管 理研究会)		まないものが必要。中央に雪解け時に登山者が渡りあるけるような仕掛けがあればよいかも。 第二花園の入口は人がやっと通れるくらいの時期から見えています。これほど広がるとはアナ恐ろしやであります。雪田通過地点は登山客としてはお花があって好ましいものですが、この際、もう通行止めにしてコケモモ-ハイマツ群落のほうへ移しかえるべきではないでしょうか。脆弱なところを通過させ続けていると「壊れた 直す」のこの繰り返しであります。
-----------------	--	--

(意見は五十音順)

※事務局に対して

登山道整備の技術はその現場がどのようになっているかをしっかりと観察しなければ、言えるものではありません。写真の量は少なく、その状況から判断するのは危険であり計画した人に対しては失礼だと思っています。

美瑛も銀泉台もしっかりと現場を見たことがある場所でしたが、それでも微妙な場所がわかりません。

素早い判断が必要だとは言いましたが、もう少し判断材料があるか、時間があって現場を見に行ける状況を作っていただきたいです。3 日以内に返答は厳しいです。(岡崎哲三・北海道山岳整備)